



トリクレン抑制と 未来投資促進法

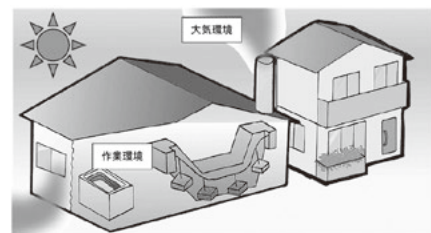
問 平成29年度の届け出情報によると、県央地域では38社がトリクレンを使っており、内29社が燕市内。これは実態とは大きく違って数字だと思うが。

答 県で使っている数字では、県央地域で98社、そのうち燕市内が80社。ほかに販売業者4社の集計では210社になる。

問 実態把握が急務であることと、県の検討会の代表のコメントにある「自主的取組のレベルを高めること」についてどういう具体策があるのか。

答 この5月に販売業者や検査機関も加わって、燕市の検討会を立ち上げた。ここで情報を持ち合いつながり、しっかりと把握していく。加えて、市では環境負荷低減への周知、啓発を図るためのセミナーを今年度も実施予定。新たに専門的知識を取得するための「資格認定講習料補助制度」や、専門家による個別指導を受ける際の費用を支援する「専門家派遣補助事業」等を創設した。

問 地域未来投資促進法を活用した進捗状況を伺う。



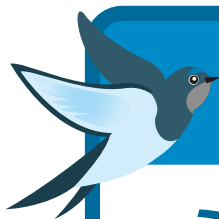
トリクロロエチレンの排出抑制に向けて
(出典) 新潟県環境対策課『トリクロロエチレンの排出抑制に向けた自主的取組ガイドライン』

答 今後の企業誘致と団地造成計画について伺う。
コロナウイルスの影響下にある経済状況を踏まえると、しばらくは足踏み状態的な対応をせざるを得ない。

問 2社の計画について本年3月30日に県内第1号となる新潟県知事の同意を得た。



柳川 隆 (市民クラブ)



議会も実践！

新型コロナウイルス感染症対策

その2

えっ!? 傍聴席(※)に議員が??

議場では、人と人の距離を保ち、密接や密集を避けるため、「1テーブルに1人着席」(通常は「1テーブルに2人着席」)としました。

そのため、傍聴席(部分)の一部を「議席」とみなし、一部の議員が交代で傍聴席に座り、本会議に参加しました。

このような対応は、燕市議会として“初”の試みです。



(※)傍聴席…

傍聴席は、全部で48席。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、1席ずつ間隔を空けて着席するため24席となっている。

